

## IV 雛受入れ

初生雛は、6日齢位まで、体温をコントロールする生理的な機能が十分に発達していないため、環境温度に対応した体温調節ができないので、初期の温度管理が重要になります。

また、4週齢位までは、骨格の発育率が非常に大きいため、代謝率がアップする期間であるこの時期に、急激な温度変化があると雛に大きな負担を与えるので、後半の発育を伸ばすためにもこの時期の温度管理が重要です。

### 給餌・給水方法

#### 1 温度

舎内温度は28℃、ブルーダー内は32～33℃を目安に暖めておきます。

また、入雛前に暖房設備を試運転調整し、1日を通じて安定した温度が保てることを確認しておきます。

試運転調整の具体的なチェックポイント

- (1) バーナーの火力が安定していること。
- (2) 本体機器の破損、脱落等がないこと。(特に、ホースの確認)
- (3) 床面との位置関係が適切なこと。
- (4) ガスボンベの、残容量を確認しておくこと。

#### 2 雛の到着時

雛の到着後、速やかにチックガード内に入れます。

#### 3 え付け作業

雛到着後、直ちにえ付けできるように努めましょう。

雛の成長には、ふ化後、出来るだけ早く飼料を与える事が大切です。また、全ての雛に均一に食べさせるには、え付け箱と併用して、床面の紙に撒き餌をすることも大切です。

##### ○自動給餌器

え付け時から、十分量の飼料を入れておき、え付け箱と併用します。

##### ○給水

ニップルドリンカーで与えます。場合によっては、補助給水器も併用します。

#### 4 給餌・給水スペース

全部の雛が一斉に採食できるよう、十分な量の給餌器・給水器を配置して下さい。また、飲水が十分できないと、飼料の摂取量や雛の健康にも影響しますので、十分な飲水スペースを確保して下さい。

○給餌・給水スペースの目安は以下を基準にして下さい

給餌器 パンフィーダー 1個以上／ 60羽  
 飲水器 ニップル・リッカー 1個以上／ 10羽

### 温度管理方法、チックガードのとりはずし

全ての雛に均一に採食・飲水させることが、斉一性のある雛を育てる基本です。そのためには、雛が採食・飲水エリアを活発に動ける様な温度管理が大切です。

夏期は、細霧冷房や扇風機の利用。冬期は、ブルーダーに加えて床面給温やジェットヒーター等を併用して下さい。

育すう初期の、部屋を閉め切って管理する時期には、室内の空気を循環させることが大切です。天井に空気攪拌機を取り付け、室内の上下の空気を循環させると良いでしょう。空気攪拌機は、両屋根（切妻）型の天井の場合効果的です。

チックガードの拡張は、1週齢より徐々に行います。冬場は、気温の高い日の午前中に広げますが、鶏房の南側から先に広げるなど、温度管理に十分注意して下さい。

チックガードの撤去は、3週齢を目安に行います。取り除くと部屋の隅にかたまる習性があるので、外した当日は日没時に見回りが必要です。

### 注意すべき事項

#### 1 湿度管理

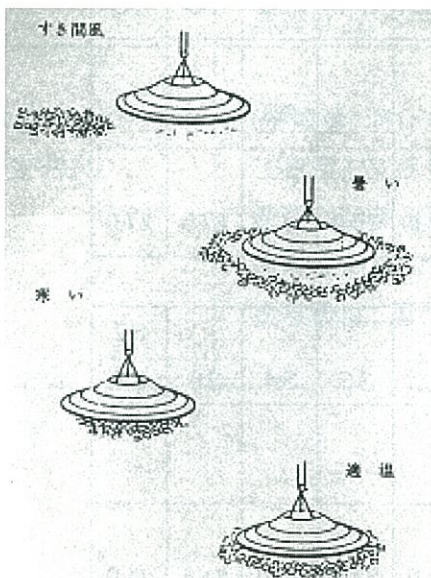
雛が十分に飲水できる環境を確保しておけば、特に湿度対策は必要ありません。

#### 2 点灯管理

え付けから、出荷まで同じ様に点灯を行います。20㎡(6坪)当たり60Wの電球1個を目安に、夜中連続点灯を行います。

#### 3 飼育環境の管理

ブルーダー内の雛の位置で温度、すきま風等の環境をチェックして下さい。



(実際はこんな風景)

